

2014/10/1

しろひげ@Kurobane です。

10月になりました。

彼岸前にやって来た今年の秋は、いつもよりその足どりが穏やかなようです。

そのぶん、「もののあわれ」の季節の移ろいをじっくりと楽しむことが出来、秋気が私たちの心を日々ちがった色で染め上げていっています。

朝の散歩の道にキンモクセイが香りはじめました。

味覚に初ものがあれば、匂いにも初物があります。

1年ぶりの芳香を鼻に吸うと、秋が体中に広がって、空気が透明感を増してきます。

野菜や果物は時期を問わず口に入る昨今ですが、あの芳香だけは季節の記憶をよびさします。

そして、匂いが喚起するのは季節感だけでなく、それにまつわる遠い思い出でもあります。

小学校の運動会が浮かびます。

歓声が吸われていく、皆が明るく貧乏であったあの時代の空は、思い出の中でいつまでも青く、そして高く澄み渡っています。

一生の伴侶にしようとした人と別れた、東京の夜がよみがえります。

駅を出て、仮住まいのアパートまでの道すがら、どこからともなく漂ってきたモクセイの香りに立ち止り、花のありかを探ったこともありました。

木犀のかをりほのかにただよふと見せませど秋の光のみなる 窪田空穂

花そのものは目立たない、地味な香炉ですが、「九里香（くりか）」の異名どおりに、時間と空間を九里の果てまで運んでくれる芳香に、しばし酔いしれたいものです。

高い空の下や、潤んだ夜気の中で、闌（たけ）ていく今年の秋を存分にお楽しみください。

追伸：

明日から3日間、私のところにテレビのロケ班が入ります。

「赤ひげのいるまち」というタイトルのBS-TBSの番組収録のためです。

放映時間などがわかりましたらお知らせします。

黒羽根整形外科

黒羽根 洋司